

# 大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橋女子大学図書館 小林倫道気付  
 (Tell) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

## 第3回 大学図書館員京都研究集会 に向けて

現在、支部委員会では、第3回大学図書館員京都研究集会（10月中旬開催予定）への取り組みの議論を行っています。

この研究集会におけるテーマについては”利用者教育”を中心に据え、基調報告として今日的な利用者教育の位置づけを明確にし、加えて、海外や国内の進んだ先進例や新たな展開などを図書館学の研究者に報告して頂き、それをもとに現場からの実践例を報告しあう参加型の研究集会にしたいと思っています。

なぜ、”利用者教育”をテーマに据えたかと申しますと、今日、大学教育において「情報リテラシー」をいかに身につけさせるかということが要求される中で、様々な情報を収集する図書館の果たすべき役割が大きくなって来ています。また、図書館自体も機械化やニューメディア等の導入によって大きく様変わりしてきており、これらのツールをうまく活用し、利用者が求める情報を自らいかに獲得するのかは、図書館側の”利用者教育”に大きく左右されると言っても過言ではないでしょう。

もちろん、ニューメディアに限らず、図書館の所蔵する資料をいかに利用者に活用してもらうのかは、導入時だけでない利用要求の発達段階に応じた”利用者教育”が必要となるでしょう。そして、この部分は、図書館員の工夫が生きるものであり、先進例から吸収できる部分がかなり大きく、実践例を交流しあう中で、「内容の濃い、ためになる」研究集会になりえると思います。

大図研の大きなテーマである「求める資料を求める人に」を実現するためには、この”利用者教育”の課題を避けて通るわけにはいかないのであり、これをテーマに据え、研究集会を秋に開催したいと思っています。

まだまだ骨子ができ上がったばかりで、これから内容を膨らませていかなければなりません。第Ⅲ期大図研大学の時の様に全会員に対してのアンケートの実施なども考えています。是非、みなさんのご意見をお聞かせ下さい。もちろん、ご参加の方もよろしくお願ひ致します。

### 目次

同志社大学人文研・キリスト教社会問題研究会文庫（吉田亮）……	2頁
点検評価とその活用・金沢研究集会（酒井忠志）……………	5頁

同志社大学人文科学研究所蔵

# キリスト教社会問題研究会文庫

—世界でも有数のコレクション—

吉田 亮 (同志社大学人文科学研究所専任研究員)

歴史資料は適正な蒐集整備の努力にめぐり会わなければ常に散逸や消滅の危機に瀕することとなる。幸いにして現存する資料にもしかるべき所にあつて広く一般にも知られている場合と、意外な所に意外な規模で集められている場合がある。同志社大学人文科学研究所蔵のキリスト教社会問題研究会文庫（CS文庫）はその意外な程に大規模なコレクションのひとつではないかと思われる。しかも、単に関連書籍を集めてあるだけではなく、キリスト教と社会問題との有機的関係について統合的・学際的な研究会を持ちながら広範な資料蒐集を行ってきた成果である。世界有数のコレクションとしてすでに海外の日本学研究者の間では高く評価されているが、御一覽頂ければその意外な程の豊富さを納得して頂けるものと思う。

CS文庫が今日の成果を得るまでに至ったのは、ハーバード・エンチン・インスティテュートをはじめとする潤沢な資金援助が得られたことにもよるが、その基盤となった「キリスト教社会問題研究会」（CS）の卓越した努力による所も大きい。CS研究会は1951年、同志社大学の教職員の間、明治以降における我が国の近代化の過程において、キリスト教、特にプロテスタント・キリスト教が社会思想や社会運動に与えた影響を共同して研究しようとする気運が起こったことにはじまる。「わが国の〈中略〉自由民権運動 廃娼運動、無産政党運動、社会事業、消費組合、共同組合運動等、更には反戦運動のどれをとっても、その出発点となり、その基盤となり、その担手となったものは多くプロテスタントの社会思想であり、社会運動家であった。〈中略〉その研究はすぐれた篤志家の研究をもつのみで、系統的・体系的な研究は不毛のまま放置されているといつてよい。しかも明治初年の先覚者とその生存中に接触していた人びとが、次つぎと物故しつつあり、現在その機を逃しては、その資料蒐集さえ困難を感ずるのではないかとおそれられる。昭和三四年（1959）はプロテスタント宣教100年記念にあたる。我々はこの100年記念までに、何とかして、これらの資料を蒐集記録し、後の研究にも資したいと考える〈後略〉」。研究会の設立趣意に説明されているとおりであるが、加えて、有志によるこの研究会には同志社というキリスト教主義学園につらなる者が先に掲げた課題に共同して取り組む事へのすぐれて旺盛な使命感と責任感があふれていた。例えば運営資金についても文部省科学研究費交付金等の助成が得られなくても活動を行っていくことを申し合わせている。後にハーバード・エンチン・インスティテュートから大規模な援助を得られるようになってからも会員から当分の間会費を徴収して運営に充てるという方針に変化はなかった。また、活動を始める為の繁雑な事務作業に幾日も泊まり込んで従事したという。

あつてしかるべき所に資料が集められてある状態を位置エネルギーと表現するなら、C

S文庫の場合は、「自分がやらねばならぬ」という熱意による運動エネルギーであると言えるだろう。これは40年以上たった今日も不変であり、広く同志社外からの参加者も増え内外にエネルギー供給しつづけている。

コレクションの内容は、文献及び逐刊物と特殊文庫及び原資料に大別される。前者についてはCS設立の趣意にのっとり、哲学・倫理、宗教、教育、文学芸術、社会福祉・社会事業、協同組合、労働問題、矯風・婦人問題、農民問題、部落問題、自由民権運動、国家主義、初期社会主義・反戦運動、大正デモクラシー、無産政党運動、ファシズム・反ファシズム運動、学生運動など多岐にわたるものである。その内容は分類整理されずでに刊行の『キリスト教社会問題研究会所蔵文献目録』（1967年）及び『キリスト教社会問題研究会雑誌新聞目録』（1970年）によって内容を知ることができる。又、最近購入文献についてはコンピューターにデータが入力されている。特殊文庫および原資料の主な内容は以下の表のとおりである。

注) 目録名の無いものはカード目録

○キリスト教教派・教会

『』は出版された目録、「」は仮目録を示す

文庫・資料名	目録名（作成・発行年）
湯浅〔興三〕文書	
教会所蔵文書	「倉敷教会所蔵資料目録」（1972年） 「教会所蔵文書目録 高梁教会、下関丸山教会」（1970年）
小沢〔三郎〕文庫	
高橋文庫	
柏木〔義円〕文書	
海老名〔弾正〕資料	「海老名道子所蔵文書 海老名弾正史料一覧表」（1973年）
吉田清太郎文書	「吉田清太郎文書目録」（1988年）
長田時行文書	「長田時行文書」（1986年）
村井知至所蔵資料	

文庫・資料名	目録名 (作成・発行年)
下村孝太郎書簡集	
聖公会文書	
〔アメリカ・ボード〕宣教師文書	『アメリカン・ボード宣教師文書資料一覧 1869～1896』 (1993年)

## ○社会思想、社会事業、社会主義、政党、ファシズム、移民

文庫・資料名	目録名 (作成・発行年)
山室〔軍平〕文庫	『山室軍平資料<仮>目録』 (1986年)
留岡幸助関連資料	
林源十郎書簡	
家庭学校寄託資料	
山川均資料	
山本宣治関係資料	『山本宣治関係資料目録 上・下』 (1968年)
協同組合資料	
水谷長三郎所蔵資料	
近藤〔栄蔵〕文庫	『近藤栄蔵文庫目録』 (1969年)
絲屋〔寿雄〕文庫	
官憲資料	
カナダ〔日系〕文書	

## 点検評価とその活用（金沢研究集会）

酒井 忠志

近畿5支部の合同研究集会のあとで開かれた恒例の懇親会の席上、東京から出向いてきた大図研全国常任委員の伊藤さんが、金沢研究集会（1994.3.5/6）の参加申込が少ないので関西からも参加してほしいと訴えられた。実は、冬の（少し遅いが）北陸路をうろついてみたいという潜在意志も、ひそかにあったし、若い時分から何度も訪れて、思い出も深く、好きでもある金沢に行けるのだからと、喜んで伊藤さんの誘いにのることにした。

テーマは「大学図書館の点検評価とその活用について」。報告は次の4本であった。

- ① 金沢大学の自主的 point 検・評価について（特別講演）  
亀山忠典（金沢大学名誉教授、元金沢大学点検評価委員会委員長）
- ② 工学部分館の点検評価について  
日谷 守（金沢大学附属図書館工学部分館）
- ③ 中央大学における図書館改善計画の経過と現状  
藤勝周次（中央大学図書館）
- ④ 自己点検・評価は自由宣言、倫理綱領、ガイドラインの視点から  
松井 博（産能大学附属図書館）

亀山先生の話は、金沢大学の点検・評価のとりくみの渦中において体験されたご苦労が滲みでて、いちいちずしりと重く響くものがあつた。構成員の共通認識としての評価の視点を整然と整理し、私たちが常に基本として踏まえなければならない組織的、原則的な諸問題を、順序正しく正確に示してもらったと思う。家に帰ってメモを読み返してみると、亀山先生の人柄に魅せられるところもあつて、詳しく紹介したいという思いがつのる。できることなら活字にして大図研の若い人々に読んでもらいたいものだ。

日谷さんの話は、1ヶ月半で工学部分館の点検評価報告書を書き上げたという驚くべき報告であつた。日頃から問題があると考えていることを、苦勞して得たこの機会に、なんとか公の場へ出したいという熱意と努力はよくわかつたが、意見のでない回覧など、人の動く気配に乏しいのは、点検評価のとりくみとして淋しかった。

藤勝さんの話はテーマの「活用」の部分にあたるのだろうか。限りなく詳細に、もれなく精緻に集められた膨大な資料を提示しての報告であつたが、結局は共通の夢を求め、語ろうとする姿勢に、私はいたく満足した。（私も時折夢を見る。図書館現場を離れ、図書館とかかわりうすくなつた今は、見る夢も以前と変わつてきたが、こうした金沢への旅も私の小さな、日常と不連続の夢の時空である。）

前日の宿酔のせいか、松井さんの話の時は夢ごちであった。自己点検・評価を推奨する行政サイドのねらい、自由宣言や倫理綱領のことはそれなりに理解できたが、庶民には馴染みやすい経営の専門用語がぼんぼん飛び出しはじめると、とてもついていけない。スマートだが、私ならIターンしたくなるな、と思いながらぼんやりと聞いていた。

昨年の全国大会の記録に、大阪の高橋さんの報告に触れた部分があった。その内容に気掛かりな点があったので、データを整理しなおし発言準備をしていたが、その場の議論の流れがかけ離れてしまったので遠慮した。今思えばちょっぴり残念である。

## ● 大図研京都からのお知らせ ●

★  
**今年の全国大会は山口で!!**

**8月27日(土)～8月29日(月)に開催**

スケジュール

全国大会は上記日程で開催されます。皆さん、今から日程の調整を!!。

↑  
**京都支部総会は7月開催**

今年度より京都支部の総会が7月に行なわれます。次々号の支部報が議案書号となります。支部委員会では総会に向けて着々論議中です。

◆ **執筆は研究を促進する!!**

京都支部では支部報に載せる記事を何でも募集しています。自己研修の第一歩として、いや、気軽な気持ちで現場のレポートや日頃課題に思っていること、自館の宣伝、業務上の悩みに「よい知恵」募集、趣味と実益を兼ねた「裏芸」紹介、書評やお薦め本紹介・・・等書いてみませんか。大図研京都ではそういう原稿大募集!!。書けば頭の中を整理することができ同じ悩みの仲間と与える力も大きい。ご相談はお近くの支部委員、大図研会員まで。執筆は人格の成長も促進する?!